

(9) 隅田公園周辺景観形成特別地区

1) 対象区域

本地区は、隅田公園の境界から概ね50mの範囲(街区単位)とします。

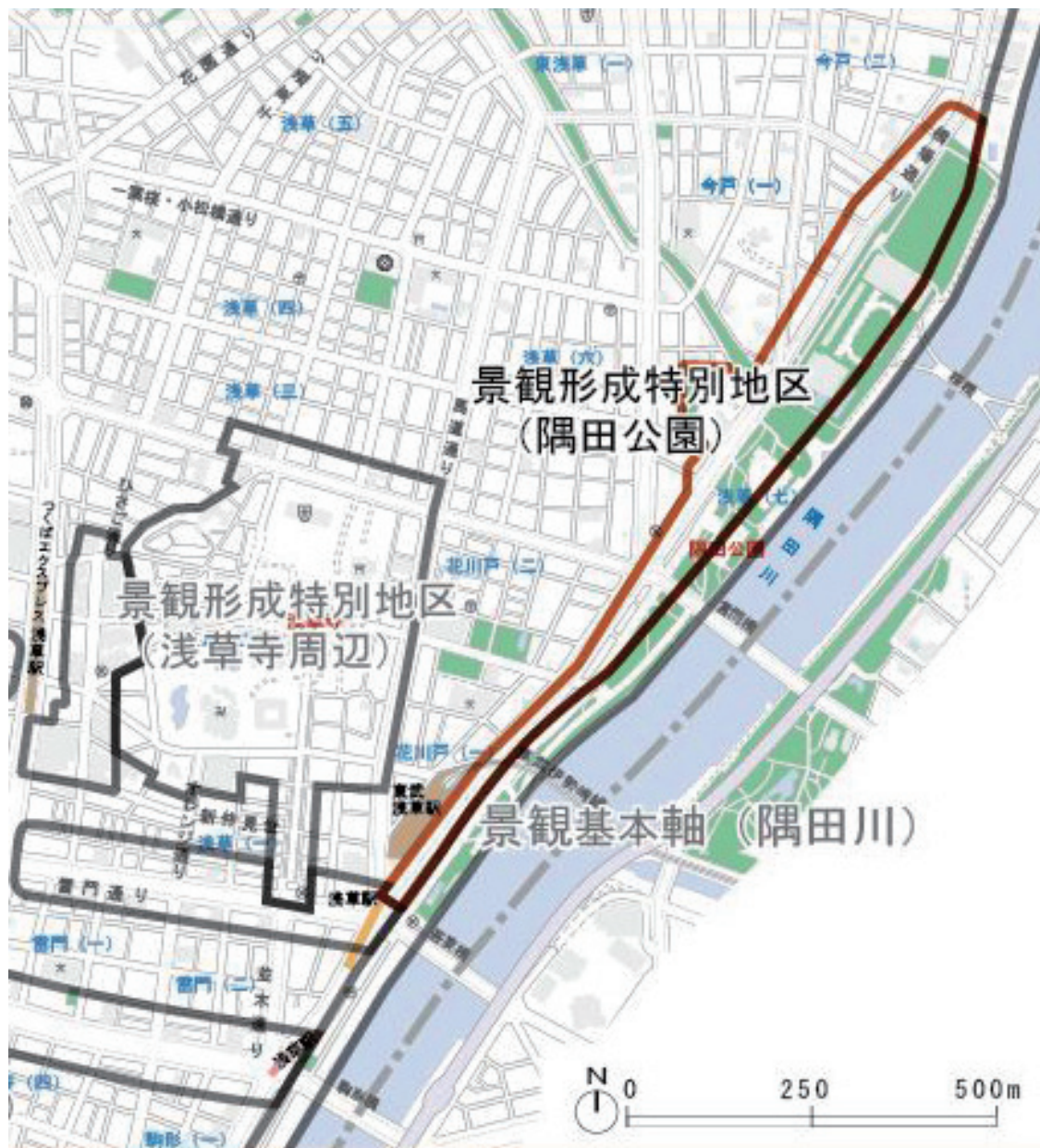


図2-10 対象区域

2) 景観特性

- 隅田公園は台東区内でも屈指の公園であり、桜や梅・あじさいなどの四季折々の花を楽しめ、体育館や野球場、テニスコートのスポーツ施設もあります。特に花見や隅田川花火大会の時期には非常に多くの観光客が訪れます。
- 隅田公園に接する通りの建物は、江戸通り橋や場通りに表の顔を向けているために、隅田公園に面してクーラーの室外機等を設置するなど建物の裏側の表情を向けた建物も多いです。しかし、近年は店舗等が公園に面して出入口をつくるなど、少しずつ魅力のある表情がつくられてきています。
- 江戸通りから一つ東側の街区のまち並みは、10階程度の高さのスカイラインを形成しており、言問橋より北側の橋場通り沿いは、3階から6階程度の低中層の建物がまち並みを形成しています。
- 公園外周部の歩道には桜並木、橋場通りにはプラタナス並木による道路沿道景観が形成されています。
- 周辺には待乳山聖天、山谷堀、今戸橋の欄干、今戸神社などの歴史的資源が存在しており、寺社等を巡る浅草名所七福神巡りなどの巡拝コースもあり、地域に親しまれてきました。



▲ 公園通り沿いの建築物の様子 1



▲ 公園通り沿いの建築物の様子 2



▲ 桜並木とスカイツリー



▲ 橋場通りのプラタナス並木

3) 景観形成の目標（基本的方向）

隅田公園は、隅田川沿いに位置し、川へ開けた眺望や、花火大会を楽しむことができます。また、園内では桜・あじさい・梅など四季折々の花や、体育館・陸上競技場・野球場などでスポーツも楽しめます。周辺には、古来より地域のシンボルとなっている、待乳山聖天や今戸神社といった寺社も存在しています。これら歴史や地域性を活かすと同時に、区民や観光客が歩きたくするようなまち並みの創出を図り、緑豊かで潤いのある景観の形成を目標とします。

1 周辺の歴史的・文化的 景観資源を活かした景観づくり

隅田公園周辺には、待乳山聖天や今戸神社といった歴史的景観資源が点在しています。それらの景観資源を活かした景観の形成を図ります。

3 周辺の水や緑を活かした景観づくり

隅田公園や山谷堀公園の豊かな緑と隅田川の水辺を活かした景観づくりを進めます。

2 隅田公園と一体となった景観づくり

隅田公園と周辺地域が一体となったまち並み景観を形成するため、隅田公園を意識した整備を行い、隅田公園周辺の建築物等の顔は隅田公園側に向けるような景観の形成を図ります。



▲ 隅田公園の桜並木



▲ 隅田公園側に顔を向けた店舗の例



▲ 山谷堀公園



▲ 駐車場からみた待乳山聖天

4) 景観形成方針【法第8条第3項】

1 隅田公園と連続性のある潤いのある景観を形成します

隅田公園の魅力をより高めるために、周辺地域が公園側に顔を向け、公園と周辺地域が一体となった潤いと調和のある周辺のまち並みが形成されるように工夫します。

- 隅田公園に面して店舗等の出入口の設置を図ります。
- 店先の緑や草花、低層部の緑化等により通りに潤いを与え、建物の表情の演出を図ります。
- 美しく経年変化する石や木などの自然素材や、銅板などの金属等の活用を図ります。
- 色彩や素材、凹凸のある壁面形状等により適度に節化された外観・ファサードの演出を図ります。
- デザインや色彩の協調によるまち並み形成を図ります。
- クーラーの室外機等の屋外設備は公園に向けて設置してはいけません。やむを得ず設置する場合は、ルーバーや緑化等により修景をします。
- 夜間照明による通りの演出を図ります。
- 東京スカイツリーからの視線を意識して公園と一体的な緑の広がりを演出する屋上緑化を図ります。
- 街路灯やファニチャー類のデザインの工夫と適切な維持管理を図ります。



▲ 低層部の緑化の例



▲ 店舗の出入口設置の例

2 地域のシンボルとなる資源や大事なポイントを活かした景観をつくります

待乳山聖天や山谷堀等の景観資源の周辺では、それらの景観資源を活かし、魅力を高める工夫を行います。また、多くの歴史的資源について、サイン等の案内板を設置するなど、浅草寺を含めて回遊性の創出を図り地域の魅力を発見し、高める工夫を行います。

- 待乳山聖天の塀等、歴史的意匠へ配慮した周辺のまち並みづくりを図ります。
- 山谷堀入口等の重要なポイントにおける、入口と一体となった街角空間の設えを図ります。
- 街角等のポイントにおけるサインの設置を図ります。



▲ 待乳山聖天の塀



▲ 山谷堀公園の街灯

3 まち並みに表情が感じられる景観を形成します

隅田公園周辺のまち並みは、隅田公園の中から見ると、公園の緑と建物の調和を図ることで、公園の居心地の良さや地域の魅力を高める工夫を行います。

- 建築物スカイラインの協調を図ります。
- ベランダや壁面の緑化を図ります。
- 低彩度を基調とした落ち着いた色彩とし、景観色彩ガイドラインに適合させます。
- 隣接地と協調した建築物の配置、ファサードの演出を図ります。
- 建築設備や附帯設備は、緑化やルーバーなどにより修景を図ります。
- 屋外広告物の大きさ、色彩、デザイン、設置位置の工夫を図ります。



▲ 建築物のスカイラインの様子

5) 景観形成基準（行為の制限）【法第8条第2項2号】

地域の景観特性を活かし、地域の魅力を高める配置・形態意匠とし、敷地全体でバランスの取れた外観とするとともに、建築物・工作物・開発行為の各基準に適合するものとします。

■建築物の景観形成基準

項目	景観形成基準
配 置	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 敷地内やその周辺に歴史的・文化的な資源がある場合は、これらを活かした配置とするとともに周辺に配慮する。 <input type="checkbox"/> 隅田公園側にオープンスペースを積極的に配置するなどゆとりの演出を図るとともに、隣接する建築物の壁面の位置などに配慮する。 <input type="checkbox"/> 駐車場、駐輪場や設備は、通りや主要な歩行者動線から見えない位置に配置する。やむを得ず通りに面する場合などは、植栽や目隠しなどによって、目立たせないようにする。
高さ・規模	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 隅田公園から見える建築物は、周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。 <input type="checkbox"/> 隅田公園の主要な眺望点からの見え方に配慮する。
形態・意匠 色彩	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 建築物等の形態・意匠は建築物全体のバランスだけでなく周辺建築物等との調和を図る。 <input type="checkbox"/> 隅田公園に面する建築物の低層部は、商業・業務・文化施設をできるだけ設け賑わいの演出を図るように配慮する。 <input type="checkbox"/> 建築物に附帯する屋外設備や階段等は、高層階や上空からの視線に配慮するとともに隅田公園内から見えない位置に配置する。やむを得ない場合は、建築物と一体的な意匠とするか、ルーバーや緑化などにより修景するなど、周囲から目立たない工夫を施すなど建築物本体や周辺との調和を図る。 <input type="checkbox"/> 建築物等の色彩や素材は、次の事項に適合するとともに周辺との調和を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・外壁の素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。 ・地域で親しまれている色彩（別表参照）の活用に努める。 ・外観の色彩は、別表に定める基準に適合するものとする。
公開空地 外構・緑等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺のまち並みとの調和を図った色調や素材とする。 <input type="checkbox"/> 通り側に積極的に緑や花を植えることができる場所を設置する。 <input type="checkbox"/> 高層階や上空からの視線に配慮し、積極的に屋上緑化を図る。 <input type="checkbox"/> 隅田公園に面する建物では、道路側に積極的に緑化を図る。 <input type="checkbox"/> 緑化に当たっては、周辺の樹種と同一性のある樹種の選定を図る。 <input type="checkbox"/> 緑地や植栽等に照明を設置するなど、夜間でも適度な明るさを確保するよう努める。 <input type="checkbox"/> 駐車場・駐輪場の出入り口は、できるだけ通りから見えないように植栽等で修景する。

■工作物の景観形成基準

項目	景観形成基準
高さ・規模	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 隅田公園からの眺望に対して圧迫感を感じさせないように配慮する。
色彩	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 色彩や素材は、次の事項に適合するとともに、周辺との調和を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。 ・地域で親しまれている色彩（別表参照）の活用に努める。 ・外観の色彩は、別表に定める基準に適合するものとする。

■開発行為の景観形成基準

別表1参照